



八王子国際フレンドからのメッセージ



中国



プロフィール

留学生

趙 沛霖 (チョウ ハイリン)

日本在住 3年目

出身地 中国河北省石家荘市

趣味 音楽、スポーツ、文学



日本での暮らし紹介



日本に来てあつという間に3年になろうとしています。この三年間に、いろいろなことを得て今の私になったなと思いますので、この三年間の日本での留学生生活を本当に感謝しています。この機会に、日本で出会った先生や友達、そしてアドバイスをしてくれたり、助けてくれた皆様、それと三年間で頂いた経験に、感謝の意を表させていただきたいと思います。

普段の生活は面白く、充実しています。大学では、さまざまな授業を受けるほかに、ゼミナールにも入っています。ゼミの中で、先生は歴史や社会を教えてくれたり、友達と人生や理想やを語ったりして、楽しい時間をいっぱい過ごす事ができました。今は学ぶことは一生の宝になり、ゼミで出会った先生や友達と、一生の恩師や親友になれると思います。だから今の生活をすごく大切に過ごしています。

大学のほか、社会的活動に参加できる場を作っていただいた皆様にも感謝しています。昨年の弁論大会に参加させていただいて、いい成績を残すことができなかったのですが、大勢の人の前で、自分の考えることを話すことができ、すごくうれしかったです。とてもいい経験だと思います。できるなら、今年も参加したいと思います。



私は中国の河北省の出身です。河北省といえば、蔚県の“剪紙”はとても有名なんです。だから今回は中国の民芸“剪紙”のことを説明したいと思います。

中国の切紙細工 “剪紙”

切紙細工とは紙をはさみや刀で切りぬいてさまざまな形をつくる手芸であります。切紙あるいは切抜細工、切抜工作ともいい、古くから中国の広い範囲で行われている題材をデフォルメして図案化し、鋏や刀を使って紙を切る作業です。どんなに造形が複雑でも、切りはなされた部分がないのが特徴です。

“剪紙”は中国の古い民間芸術でありながら、最も愛される工芸美術品でもあります。中国の民間に伝わる切り紙細工は叙情、愛情、お祝い事および風俗と深い関わりのある民間芸術であり、切り紙が表現する内容は常に人々の実際の暮らしと緊密に結びついています。“剪紙”の歴史は西暦紀元六世紀のころに遡ることができます。西漢王朝の以前、製紙技術は未発達し、紙が少ないため、当時の人は織物を切ったり、玉石や金属品を彫ったりしたが、西暦105年製造術が発明され、紙が多く作れるようになったため、切紙細工の製造技術もは進歩し発展を遂げました。

“剪紙”は使う用途が違ふことによって何種類かに分けられます。儀式用の「礼花」、祝儀用の「喜花」、窓にはる「窓荘」、天井にはる「団花」などがあります。昔の中国では、人が死んだとき、紙を使って、人、物、動物、建物などの形に似たもの（礼花）を作って、それをなきがらと一緒に茶毘に付す風俗がありました。そうすることによって、死んだ人はあの世でもいい生活ができるように家族は願っていたからです。幸せへの願いは生きている人たちにももちろんあります。いい生活が恵まれるよう、人々は紙に願いを託し、紙で生活を美しくしようとしました。普通の民家だけではなく、紙で作ったいろいろなものは先祖や神を祭る時の供え物（喜花）にもなっていました。祝祭日になると切り紙を木戸や窓に貼りつけて飾ることを好むので、“剪紙”はまだ“窓花”と呼ばれます。また切り紙を靴の上に刺繍する模様として用いればそれは“靴花”と呼ばれます。

昔は“剪紙”は農村の既婚や未婚の女の子たちが身につけなければならない技術でありました。紡織と同じように、“剪紙”は女の子たちにとって当たり前の技術であって、特に結婚するとき、“剪紙”をうまくやれるかどうかは、花嫁を評価する標準にもなっていました。だが、仕事として“剪紙”をやる専門職人はほとんど男でした。今と違って“剪紙”を作って稼げたり、商売したりできるのは男だけだからであります。

“剪紙”は普通に二つのやり方があります。鋏で紙を裁つ方法は、鋏を使って紙を切り、そして何枚の切った紙を貼り付けて、最後はまた鋏で手入れをします。もう一つの刀で紙を切る方法は、何十枚の紙をあらかじめ重ねて、準備した形に従って刀で切る作業であります。刀を使う方法は、鋏を使う方法より、いいところは数多くの製品を一斉に作るということです。逆に鋏を使う方はコストは低く、やりやすいのがメリットです。やり方や目的の相違によって、趣味として“剪紙”をする女の子たちは、鋏で裁つ方法を使うことが多いに対して、職人さんは刀で切る方

法がよく採用されます。はさみやナイフを使うほかに紙を直接手でちぎるという方法もあり、はさみなどを使った切り紙細工よりも更に豪快で素朴であります。製造コストは低く、技術は簡単なため、“剪紙”の風俗が広く伝わっており、広い範囲でやられ、今日でも受け継ぎ、発展させていきます。

昔、中国の農村では交通が不便であったため、各地の切り紙細工は往々にしてその地ならではの特色を形成していった。その中、特に河北省の蔚県の“剪紙”は切り目は細く、図案は綺麗だとの事で、有名になっています。日本には、奈良時代に中国から祭祀用として切紙細工の技術を伝播したとされます。その際、紙をつかうものは剪紙、布をつかうものは剪綵(せんさい)とよばれました。綵(あやぎぬ)を人物の形に切りぬいた最古の剪綵は、現在も正倉院の北倉に御物としておさめられています。

“剪紙”の歴史は長く、種類は多いため、今回は全部紹介することができないが、まだ今度ゆっくり話したいと思います。“剪紙”は私にもとても好きな民芸なので、できるだけ多くの日本の皆様に知っていただいて、見ていただきたいです。